

令和2年 6月 「月報」

1 はじめに

政府は、5月25日（月）、新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、全国に発令されていた非常事態宣言を解除しました。

わが国は、都市封鎖や外出禁止などの外国のような強硬策を採らずに、事業者への休業要請や個人への自粛要請等を行い、その結果ある程度感染者数を抑え込みました。これは「政府や自治体の要請に素直に従う日本人の気質や頑張りがあった。」と多くの人達が認めるところでしょう。

しかし、政府の非常事態宣言が解除されたからといって、感染が終息したわけではありません。気を緩めると2波、3波と爆発的感染が襲来することを肝に銘じ、引き続き感染症対策を会員一人一人が実践しましょう。

この度の事態に際し防衛省・自衛隊は、新型コロナウイルス感染症に対する水際対策強化や市中感染拡大防止のための活動を献身的に実施しました。この活動において1名の感染者も出していない自衛隊の感染症対策は、国内外から高く評価されております。

一方で、尖閣諸島周辺では中国公船の領海侵犯が頻発しています。新型コロナウイルスによる緊急事態につけ込み現状変更をたくらむ中国やミサイル発射を繰り返す北朝鮮の行動に対し、防衛省・自衛隊はウイルス対策を講じつつ、しっかりと警戒・監視任務を継続しています。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 中東地域における日本船舶の安全確保に必要な情報収集活動への派遣

5月10（日）、中東地域における情報収集活動に派遣される護衛艦「きりさめ」が、隊員約200名を載せて佐世保港（長崎県）を出港しました。同艦は、出港後14日間、日本近海で訓練を続け、この間にPCR検査も行い、全員が陰性であることを確認した上で中東に向かいました。

「きりさめ」は、6月上旬に現地に到着、1次隊の「たかなみ」から任務を引き継ぐ予定です。



出港する護衛艦「きりさめ」

(2) 南スーダン国際平和協力業務（UNMIS S）の派遣期間の1年延長

わが国は、UNMIS S司令部に、平成23年11月から要員4名（兵站、情報、施設及び航空運用幕僚）を派遣しております。

国連の安全保障理事会において、UNMIS Sの活動期間を令和3年3月15日まで1年間延長する決議が採択されました。これを踏まえ、わが国のUNMIS S実施計画を変更して、令和3年5月31日まで1年間の派遣期間を延長しました。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための防衛省・自衛隊の取組み

ア 新型コロナウイルス感染症に対する水際対策強化に係る災害派遣の終了

防衛省・自衛隊は、3月28日（土）から防衛大臣命令による新型コロナウイルス感染症に対する水際対策強化に係る災害派遣を約40～50人の隊員をもって実施してきましたが、5月31日（日）をもって全て終了しました。延べ活動人員は約8、600人になります。

その活動内容は、看護官等が成田・羽田空港でPCR検査のための検体採取及び宿泊施設に滞在する帰国者・入国者への生活支援です。

PCR検査の結果が出るまで帰国者・入国者を空港（成田、羽田、関西、中部）から宿泊施設に送る輸送支援はすでに4月26日をもって終了し、民間業者へ移行しています。

イ 新型コロナウイルス市中感染拡大防止のための災害派遣

4月上旬以降、29都道府県知事からの要請に基づき、新型コロナウイルス市中感染拡大防止のための災害派遣【①民間宿泊施設における陽性患者（無症状・軽症）に対する生活支援、②民間宿泊施設で対応する県職員等に対する教育（防護服の着脱要領等）支援、③陽性患者（無症状・軽症）を病院から民間宿泊施設へ輸送支援、④陽性患者を離島空港から本土空港までの患者空輸】を全国各部隊が実施しました。



感染防護服の着脱訓練の様子

ウ 医療従事者へ「感謝と敬意」を込め、ブルーインパルスが東京上空を飛行

航空自衛隊の「ブルーインパルス」が、新型コロナウイルスに対応する医療従事者などに「感謝と敬意」を示すため、5月29日（金）、1240～1300の間東京都心の上空を飛行しました。

多くの医療従事者が、その飛行に拍手を送りました。



スモークをなびかせ飛行（森山理事撮影）



手を振って応える医療従事者

（4）航空自衛隊に宇宙作戦隊を新編

5月18日（月）、航空自衛隊は、初の宇宙専門部隊となる「宇宙作戦隊」を府中基地（東京都）に新編しました。部隊は、約20名で編成され、宇宙状況監視システムを運用するなど、宇宙空間の安定的利用の確保に資する活動を実施する予定です。

防衛省講堂で行われた隊旗授与式において、河野防衛大臣は、「陸海空に加え、宇宙をはじめとする新領域でもわが国の優位性を確保することが重要だ」と訓示しました。

今後、防衛省は令和5年度に予定する宇宙監視本格化に向け、山口県山陽小野田市にレーダー施設を建設すると共に宇宙情報を集約する宇宙状況監視システム（SSA）を府中基地に配備する予定です。



初代隊長阿式2等空佐に隊旗授与

3 家族会の活動

(1) 新型コロナウイルス対応の医療従事隊員等への感謝と激励

ア 自衛隊中央病院勤務者への感謝、激励品の贈呈

本会は、5月14日（木）、武漢からの帰国者やダイヤモンド・プリンセス号などの陽性患者を220名以上受け入れて献身的な治療・看護を行っている自衛隊中央病院勤務者に対して激励品（菓子詰め合わせ）を贈呈しました。

この際、「中央病院は、1名の院内感染者を出すことなく治療に専念されており、その治療や防護等に関する高度な技術は、各地で院内感染が問題となっている中で私達自衛隊関係者の誇りです。改めまして、ご活躍に対して心より敬意を表し、感謝申し上げます。（要旨）」との本会会員一同からの感謝のメッセージを添えています。

上部病院長からは、「賜りましたお気持ちと激励品は、感染症に苦しむ患者様の治療にあたる当院職員の励みとなり、今後の医療活動に臨む原動力になります。心より感謝申し上げます」



との礼状が、本会会長あてに寄せられました。

激励品を手にする中央病院勤務者

イ おやばと紙面へ「感謝の言葉」

本来ならば、2項（3）で述べた空港等における水際対策強化に係る看護官等や市中感染対応に係る教育支援・生活支援等の災害派遣を実施中のすべての隊員を慰問・激励したいところではありますが、交代勤務であったり、活動が全国広範囲に及ぶために本会からの慰問・激励はできませんでした。

このため、おやばと6月号第1紙面に、本会会長からの「感謝の言葉」を掲載し、すべての隊員への感謝と激励としました。

(2) コロナに負けず地方協力本部勤務者を激励（鳥取県家族会）

鳥取県家族会女性部（上地百合子部長）は、5月1日（金）、鳥取地本を訪問し、女性部が作成した「手作りの布マスク100枚」を村岡地本長へ贈呈しました。

上地部長は、「日頃の家族会への支援に対する地本勤務者への感謝及び新型コロナウイルスに屈することなく、職務に邁進してもらいたいとの意を込めて作成しました」と語りました。

布マスクは、形状が調整可能なワイヤーも縫い込まれ、洗濯もでき衛生的で使い心地は抜群だそうです。使用上のコメントも添えられており、丹精込めて作られたマスクに地本長も感激していました。



手作りマスクを村岡地本長へ贈呈
上地女性部長（中央）、副部長（左）

（3）自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果（月間報告）

ア 全般

4月1日から設置した「問い合わせ窓口」の5月の集計結果は、総件数2件でした。

件数こそ少ないですが、新規の1件は地区会長経由による会員からの相談に基づき、部隊と連携して迅速に対応した結果、大きな問題になる前に一応の解決をみることができ、会員からも部隊側から感謝されました。

「隊員と家族をつなぐ」本会ならではの対応ができたものと、改めて「問い合わせ窓口」設置の意義を認識しました。

イ 集計結果(概要)

- 総件数：2件（いずれも「隊員や家族に関する問い合わせ」）
- 新再区分：新規1件、4月からの継続分1件
- 問い合わせ区分：いずれも職場関係

ウ 今後の方向

新型コロナウイルス対応のために、自衛隊員も普段とは違う勤務や生活を強いられストレスも溜まっているようで、それに関連した「問い合わせ」も散見されます。

緊急事態宣言は解除になりましたが、しばらく現在のような状況が続くことでしょうから、自衛隊員にのみならず会員の皆様の悩み解決やストレス解消も含め、何かあれば遠慮なく本会の「問い合わせ窓口」をご活用下さい。

なお、個人情報の保護には特に留意します。

(4) 家族会活動スナップ

【自衛官候補生へ激励品（キャンデイの詰め合わせ）を贈呈】



教育隊長（宮澤副連隊長）へ激励品を贈呈する後藤伊丹自衛隊家族会会長



10km行進時に候補生へ贈呈

【新着任中隊長を表敬】



福山市家族会（会長 渡邊政夫）

【水陸機動団の訓練研修】



長崎県家族会（会長 浦田 正）